

第9回教育研究審議会

議事概要

日 時 令和2年7月29日(水) 午後4時00分～午後6時01分

場 所 本部棟 3階 大会議室

出席者 藤田英典学長、杉本光司副学長、田中昌弥副学長、深澤祥邦事務局長、小林重雄理事、樋口雄人学長補佐、佐藤明浩学長補佐、加藤めぐみ学長補佐、新井仁入学センター長、廣田健教職支援センター長、北垣憲仁地域交流研究センター長、茂木秀昭国際交流センター長、竹島達也研究科委員長、野中潤国文学科長、ハウエル・エヴァンス英文学科長、山本芳美比較文化学科長、原和久国際教育学科長、鳥原正敏学校教育学科長、春日尚雄地域社会学科長、矢嶋亘総務課長、石川和広経営企画課長、中村さき子学生課長

藤田学長より挨拶

2 議 事

(1) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について(比較文化学科)

○担当者から資料1-1に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。

→提案通り承認。

◇比較文化第二演習Ⅷ

◆現担当者の退職のため

○担当者から資料1-2に基づき「非常勤講師採用候補者に係る資料」について説明。

→提案通り承認(予定半年間)。※担当候補者に関する意見書一部文言削除

◇地域社会学・日本都市社会学・日本移民学・日本社会学など

新規採用 ランク B

(2) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について(学校教育学科)

○担当者から資料2-1に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。

→提案通り承認。

◇他教科と関連させた英語指導

◆科目担当者の本務校の関係により授業担当できないため

○担当者から資料2-2に基づき「非常勤講師採用候補者に係る資料」について説明。

→提案通り承認(予定半年間)。※令和3年度

◇大学英语教育学・全国英語教育学・小学校英語教育学・CLIL学など

新規採用 ランク A

(3) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について(共通教育)

○担当者から資料3-1に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。

→提案通り承認。

◇体育Ⅱ(サッカー) A、B・体育(フットサル)

◆授業担当予定者辞退のため

○担当者から資料 3-2 に基づき「非常勤講師採用候補者に係る資料」について説明。

→提案通り承認（予定半年間）。

◇日本野外教育学・日本ダウン症学

新規採用 ランク C

(4) 2020 年度後期中国留学に関する提案について（国際交流センター）

○担当者から資料 4-1 から資料 4-3 に基づき説明。→提案どおり承認。

(5) 令和 2 年度後期における勤務体制に関する要望書

○担当者 1 及び担当者 2 から資料 5 に基づき説明。→審議の結果取り下げ。

→傷病休暇後で体調が万全でないのであれば体調が万全となるまでは傷病休暇取得が現実的ではないか。

→学科長として担当教員には傷病による休暇の検討も促したが授業担当を強く希望している。

→現状、新型コロナウイルス関連として遠隔授業の実施をしているが、本来、本学の規定や学則上では、遠隔授業は交換留学関連としてのみの実施を認めており、提案事由では遠隔授業は認められないと考える。

→仮定の話となるが、遠隔授業が認められた場合には学生の受講に影響が及ばないようにするため時間割の変更の検討が必要である。

→皆からの意見などを踏まえ提案について取り下げ、再度本人および学科内で調整を行う。

(6) 復職教員の処遇について

○担当者から資料 6 に基づき説明。→提案どおり承認。

→該当学科所属教員として立場もあり確認となるが、判決では授業担当部分について棄却されており別訴においても認定事実部分があるが、本学の処遇方針決定事由について教示願いたい。

→別訴での認定事実部分については、原告による釈明事実書類の提出等もあり、授業担当部分の棄却については訴訟により決するものではなく大学裁量によるものであり、原告には請求する利益が存在するものとされている。

→本学の処遇方針について概ね常識的な判断として理解できるが、採用当時の学科へ所属させることが唯一の改善策ではない可能性もあると考えるが、前任校での事案などに対して本学では問題がないものであると判断したものか。

→学生及び保護者などの不安払拭のため、該当教員には昨年度から研修への参加なども促し参加も確認できており、今後も引き続き使用者として監督責任を果たしていく。

(7) 令和 2 年度 開講科目について（比較文化学科）

○担当者から資料 7 に基づき説明。→提案どおり承認。

(8) 令和 2 年度 非常勤講師授業担当科目について（第 17 回）

○担当者から資料 8 に基づき説明。→提案どおり承認。

(9) 令和 2 年度「教員選考委員会」の構成について

○第 4 回・第 6 回・第 8 回教育研究審議会において提案された、英文学科・国文学科・比較文化学科への専任教員採用について教員選考委員会を組織する。

◇英文学科

◆上記教員選考委員決定

- ◇国文学科
 - ◆上記教員選考委員決定
- ◇比較文化学科
 - ◆上記教員選考委員決定

(10) その他

○担当者から学部専任教員の担当科目コマ数および大学院での担当科目コマについて提案。

→継続審議

◇担当科目コマが2年間継続して受講者がいない状況が発生しているため他部署での状況や考えを聞きたい。

→科目により0人だけではなく少人数のコマも存在すると承知している。しかし、学科カリキュラムに対しての科目適合性の問題・担当教員の問題・時間割の問題など様々な要因があると考えている。また、本学は科目数が多いと感じているため一般論として検討し直した方が良いと考える。

→受講者0人に対しては今年度コロナの影響もあることから、受講者0人の要因についてわかる範囲で構わないので詳細を教えてください。

→問題となっているのは受講者0人のコマについて、次年度以降の開講未開講の話であるのか、若しくは本来の持ちコマ数が不足してしまうことなのか教えてください。

→受講者0人により2年間続けて3.0コマとなってしまった専任教員が結果的に出てしまったがチェック機能がないものなのか不安に感じたため問題提起させていただいた。

→受講者0人については今後組織的な対応方法を構築する必要がある。なお、大学院担当については別途手当も支給されており、福田前学長が提案した経緯もあることなどから5.5コマについて検討しなければならないものであると考える。

→福田前学長の提案を受け運営会議において課題として認識しているが、専攻により様々な問題もあり結論が出せていない状況にある。しかし、断続的に検討し結論が出ない状況はよろしくないため、今後、運営会議を中心に強力的に議論をすすめたい。

→議論の前提としてデータを提示していただく必要があると考える。

→教員間での不公平感が生じないようにするため時間をかけて引き続き議論をしていきたい。

3 報 告

(1) キャリア支援の重視について

○担当者からキャリア支援について報告。

◇6割が民間企業へ就職している現状であり、本学においては教員および公務員対策は充実しているが民間企業対策に対して更なる強化を図る必要があると考える。

→本学学生の就職活動開始時期については教員志望が多いこともあり他学に比べて遅くなっている問題がある。現在も早い時期に活動開始させるよう努力しているが浸透していないため引き続きキャリア支援センターを中心に改善を図っていく。

(2) 「新型コロナウイルス感染症拡大防止のための活動指針」の策定について

○担当者から資料10に基づき報告。

(3) その他

○担当者から大学基準協会による実地調査日程などについて報告。

4 閉 会

以 上